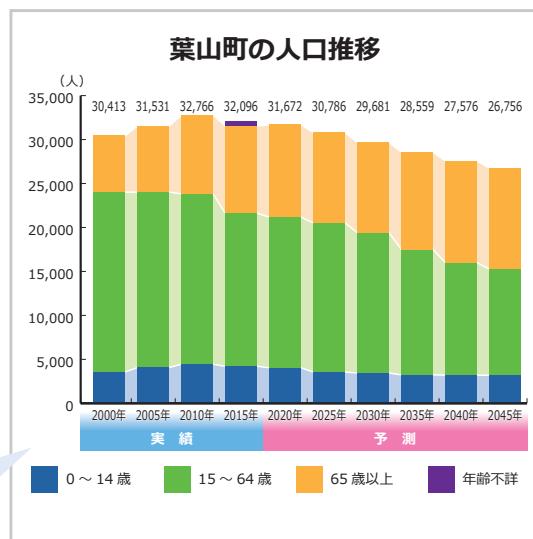




予算不足で必要な事業もやれない時代がやってくる!

減少する葉山町の人口

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後、葉山町の人口は2010（平成22）年の32,766人を頂点に人口は減少に転じるものと予測されており、2040年には約29,000人、2060年には約25,000人にまで減少するものと推計されています。（参考資料「葉山町人口ビジョン まち・ひと・しごと創世総合戦略（平成27年度～平成31年度）」）



【データ出所】

総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口

町の税収は減るのに やらねばならない事業が目白押し

町の人口が減るということは、町の収入が減ることを意味します。町民生活に欠かすことのできない事業の予算すら確保できない時代が来るかもしれません。

葉山町では下水道整備、クリーンセンターの再整備、小中学校など公共施設の建て替え・改修などお金のかかる事業が目白押しです。一方、ごみ処理や福祉政策など町民の日々の安心を守る事業もしっかりやっていかねばなりません。



クリーンセンター

公共施設の改修・更新に必要な財源を確保できるのか？

葉山町は公共施設等総合管理計画で、今後40年間の改修・更新に伴う費用の年平均額は少なく見積もっても10億円前後と推計しています。葉山町が直近の10年間に支出した投資的経費は年平均で9.3億円でしたが、直近5年間では、僅か6.2億円に過ぎません。

今後町の税収が減る中で、直近5年間の投資的経費の1.6倍もの財源をどうやって捻出するのでしょうか。

今、最もやらねばならないことは、

しっかりした財政見通しと優先すべき事業の見極めです!

優先すべき政策事業の提案

1 持続可能な自立した活気ある町づくり

- 葉山の財産である恵まれた自然環境、豊富な人材、御用邸のある町のブランドを生かした葉山町の観光や事業などの活性化策を検討し実行するプロジェクトの立ち上げ
- 町民の活動交流を活発にし、町内各地の特性に応じた地域おこし・地域づくりを支援する交通手段の整備
- 若い人の起業・移住や高齢者の多様な社会貢献の支援

2 障がいのある人も高齢者も安心して住み続けられるまちづくり

- 保健・医療・福祉の連携と地域の支え合いにより、病気や体が弱くなっても住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくり
- 地域の人が集まれる町内会館やサロンなど身近な拠点の整備

3 安心して子育てができ働くことができるまちづくり

- 保育所・学童保育・認定こども園の整備と人材の育成確保及び子育て支援の拠点として地域に開かれた施設化の推進
- 老朽化した小中学校の施設設備の早急な改修・整備
- 学校・PTA・行政・地域の連携協力による教育都市宣言

4 災害から町民の生命を守るまちづくり

- 津波から生命を守るための避難誘導路の整備・避難施設の早急な確保
- 町民の自助力、地域の共助力、行政・消防・警察等の公助力の連携強化による防災力の向上

「徹底した情報公開と活発な議論」が 住みよい葉山町をつくる



葉山ステーション

これらの提案を実現するためには、「徹底した情報公開と活発な議論が必要で、これによってこそ真の町民サービスを実現できる」と中村かずおは34年間地方行政に携わった経験から言っています。情報を共有し議論を戦わす組織風土を育むことが大事です。

厳しい財政状況のもと、今後ますます難しい判断を求められるようになります。町民、町職員、そして町長と議会が情報を共有し、それぞれの立場でしっかりと議論して最良の事業選択・政策判断ができるようにしたいものです。